

2023年12月11日
2024年3月24日改訂

会員、医療関係者 各位

乾燥弱毒生麻疹風疹混合（MR）ワクチン接種率の現状と課題について

日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会

世界的に麻疹が流行しており、日本でも感染の拡大に注意が必要です。
乾燥弱毒生麻疹風疹混合（MR ワクチン）接種率が低下しています！
MR ワクチンの定期予防接種未接種の方は、早めに接種を受けるようにしましょう！！

【麻疹、風疹について】

麻疹（はしか）は、麻疹ウイルスにより引き起こされる、感染力の非常に強い（空気感染する）急性の全身感染症です。肺炎を合併したり、脳炎を発症して後遺症が残ったり、死亡することがあります。日本は2015年3月にWHOによって麻疹が国内から排除されたと認定されました。排除認定後は、海外からの輸入例と、輸入例からの感染事例が散発的に認められています。

風疹は、風疹ウイルスにより引き起こされる急性の発疹性感染症です。風疹も局地的流行や小流行が散発的に認められています。一般に症状は軽症ですが、稀に脳炎や血小板減少性紫斑病を発症します。また、風疹に対する免疫が不十分な妊娠20週頃までの妊婦が風疹ウイルスに感染すると、難聴や白内障、心臓の病気になる先天性風疹症候群の子どもが生まれてくる可能性が高くなります。

【MR ワクチン接種率の現状と課題】

MR ワクチンは、第1期として生後12～24か月未満の者に、第2期として5歳以上7歳未満で小学校就学前1年間の者に、それぞれ1回ずつ定期接種として接種されます。

これまで95%以上の高い接種率が得られていた第1期の接種率が、2021年度は全体として93.5%に低下してしまいました。2022年度には95.4%と上昇しましたが、95%に達しない地域が数多く認められています（図1）。麻疹に対する集団免疫を維持し、日本の麻疹排除状態を維持するためには、少なくとも第1期の接種率を全国的に95%以上に保つ必要があります。

第2期の接種率は、第1期に比べ低い状況が続いており、2022年度には1県を除く全国で95%未満となり、90%を切る地域も複数認められるようになっていきます（図2）。第2期の接種は、長期間有効な免疫を確実につけるために必要であり、第1期と同様に95%以上の接種率を目指す必要があります。

麻疹や風疹が、輸入感染症として国内に持ち込まれるリスクは常に存在しています。このままでは、麻疹や風疹に対する免疫を持たない人が増え、麻疹や風疹が国内で流行してしまうことが危惧されます。MR ワクチンの定期予防接種未完了の方は、かかりつけ医に相談し、早めに接種を受けることが大切です。

【2024年以降の麻疹の発生状況】

世界的に麻疹が流行しており、2024年3月現在、日本でも東京をはじめ全国で麻疹の報告が相次いでなされています。人の移動の多い時期であり、今後の感染拡大に注意が必要です。麻疹

が疑われる際には、公共交通機関の利用を控え、事前に医療機関に連絡した上で受診すること、ワクチン接種歴を確認し必要な場合は接種を検討すること、などを求めるようにしてください。

2024年3月現在、MRワクチンの入荷が困難になっている地域があります。接種の優先順位が特に高いのは、下記の人です。

- 1歳児（第1期定期接種対象）
- 5歳以上7歳未満で小学校入学前1年間の幼児（第2期定期接種対象：当該年度の3月31日まで）
- 2歳以上で未接種未罹患の小児（5歳以上7歳未満で小学校入学前1年間の幼児は第2期定期接種対象、それ以外の方は任意接種）
- 麻疹患者と空間を共有したり、同じ保育所・幼稚園・学校・塾・職場等で麻疹患者の発生があった未接種未罹患・1回接種・接種歴罹患歴不明の人
- 海外渡航前で未接種未罹患・1回接種・接種歴罹患歴不明の人（渡航1か月前までに抗体検査、陰性の場合は接種後の渡航検討）

18歳以上50歳未満の方は、麻疹含有ワクチンの接種歴を母子健康手帳で確認し、子どもの頃を含めて1歳以上で2回の予防接種記録がない場合・不明の場合は、まずは麻疹の抗体検査を検討してください。

50歳以上の方は通常、麻疹既罹患です。既罹患の場合は終生免疫です。心配な場合、すぐにワクチン接種を検討するのではなく、まずは麻疹の抗体検査で免疫の有無を確認してください（第5期風疹定期接種対象の男性（令和6年度に45～62歳になる男性）は、クーポン券を使用して風疹抗体検査もあわせて実施してください）。

明らかな発熱を呈している者、重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者、ワクチンの成分によってアナフィラキシーを呈したことがあることが明らかな者、明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する者及び免疫抑制をきたす治療を受けている者、妊娠していることが明らかな者は、麻疹含有ワクチンの接種不適合者です。

図1. 第1期 麻疹風疹ワクチン接種状況
(2018～2022年度)

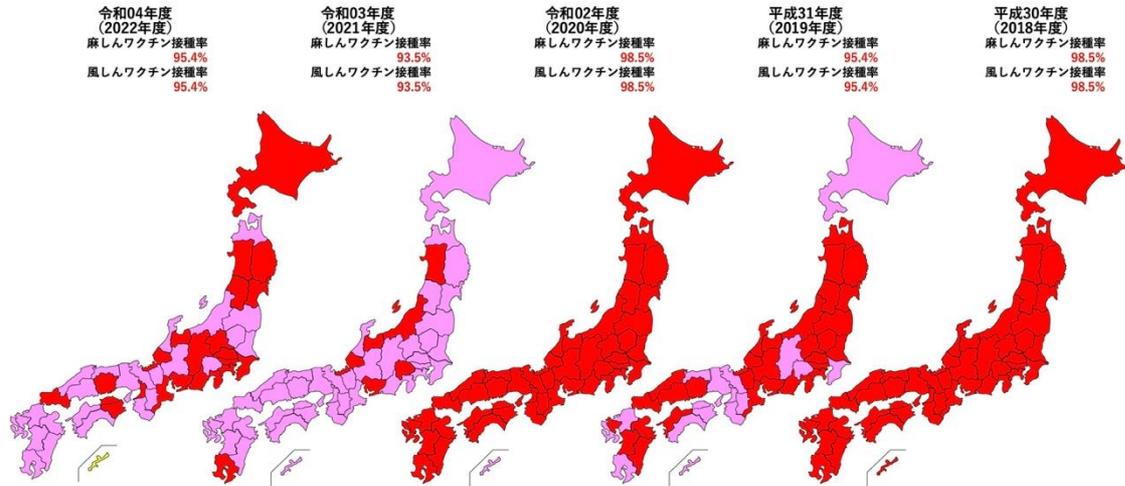
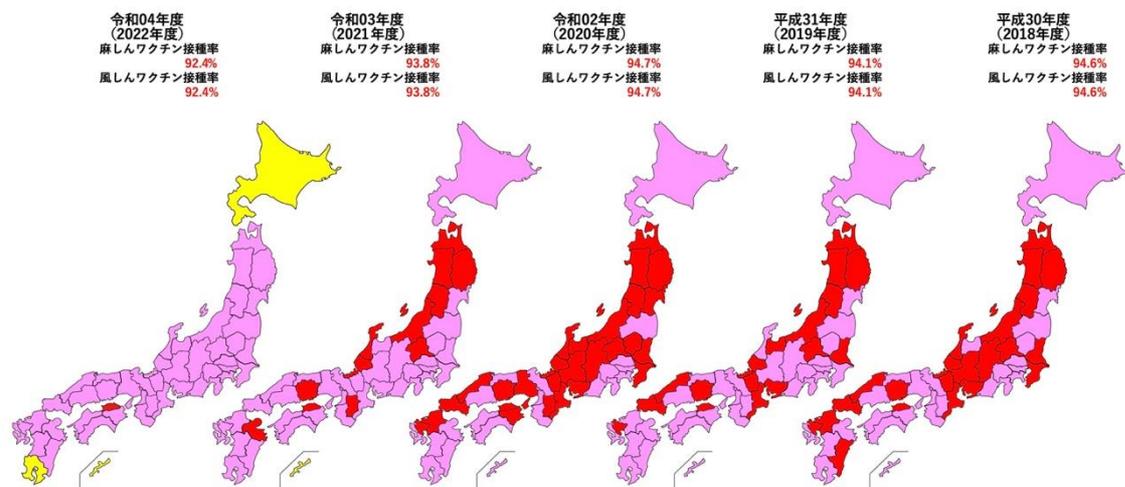
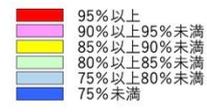


図2. 第2期 麻疹風疹ワクチン接種状況
(2018～2022年度)



※麻疹ワクチン接種率 (%)
 =(麻疹風しん混合ワクチン接種者数+麻疹単抗原ワクチン接種者数)/接種対象者数×100
 ※風しんワクチン接種率 (%)
 =(麻疹風しん混合ワクチン接種者数+風しん単抗原ワクチン接種者数)/接種対象者数×100



※地図は麻疹ワクチン接種率に基づく色分け

厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部予防接種課、国立感染症研究所感染症疫学センター

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou21/hashika.html>